

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2022年 2月 25日

事業所名 Kids/ハミング放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			利用定員10名 機能訓練室(活動室面積)60.601㎡
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		条件を満たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		施設内はすべてバリアフリーです。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			半年に一度振り返りの会議をとり、職員全員に内容を周知できるようにしている。また年に2回管理者と職員の面談の機会を設けている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		ホームページに公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		今後の課題としていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		毎月1回研修の機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			保護者から支援のニーズを聞き取り、職員でモニタリングを行ったうえで計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			大阪府参考書式を使用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			活動内容は各担当者が立案し、自発管と検討の上、当日の状況に合わせて実施。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			季節などに応じたプログラムを立て、年度終わりや年度始まりに見直し改善している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			出来るだけ個別活動と集団活動を組み合わせ計画を作成しているが、保護者や本人の意思を尊重しているため偏りがある場合もある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		朝礼と昼礼を行い、それぞれの役割を確認、情報共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			支援中でも気づいたことを振り返れるよう、メモを取るため業務日誌にスペースを作る。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			記録は活動内容ではなくお子様の様子を細かく記録するように心がけています
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			管理者だけでなく作業療法士などの職員の意見も反映させられるような、モニタリングをしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			感染症対策をしながら、週ごとに複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が出席し、必要に応じてほかの職員も同席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		基本的には学校へのお迎えの時に細目に情報共有をし、必要がある場合は電話連絡や、学校への訪問を行い連携をとっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	医療的ケアが必要なお子様は現在受け入れておりません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	児童発達支援事業所を利用していた児童は引き継ぎ内容を書面でいただくことにしているが、保育園との引き継ぎを行った事は無い。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		放課後等デイサービスの記録や情報を提供と共有し卒業後の相談や助言も行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	リモートでの研修には積極的に参加させていただいておりますが、感染症対策のため対面での研修への参加は控えております。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	子ども達に無理のない範囲で交流の機会を作れるように検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		障がい児者日中活動事業者連絡会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者様とは連絡ノートを通して、困っていることや普段の様子について聞き出し、当方からも施設での様子について報告をしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレントトレーニング等の支援についての保護者様向け講習等は行っておりません、面談時にご家庭での様子をお聞きした上で、支援を行えるように努めたいと思います。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に面談を行い、書面に沿って出来るだけ丁寧に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時やお電話で、悩みや相談を受け、一緒に考えるように努めている。また通院時にお子様の様子等が必要な場合は、様子をまとめた文章を作成し、お渡しすることもある。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度は感染症対策のため保護者同士の交流の場を設ける事は控えているが、例年は夏祭りなど保護者の方に参加して頂く行事を計画している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達管理責任者を中心に苦情に関しては即時に対応するように徹底している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		イベントカレンダーや事業所独自の新聞を発行し、SNSやHP等からも活動内容が伝わるようにしている。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人名が記載されている書類については鍵付き書庫に保管し、会議の資料等でもイニシャルのみにするなど徹底しております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者様とは送迎時や面談、電話を使ってコミュニケーションをとり、意思疎通の難しい子どもに対しても表情などから気持ちをくみ取れるよう配慮しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	来年度は感染症の状況をみながら無理なくできる行事を計画してまいります。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアル化はしていますがすべての保護者様への周知が出来ていないので、今後周知の方法を検討してまいります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			毎月1度、防災訓練や消防訓練を行っております。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			事業所全員職員にセルフチェックを行わせ、フィードバックするなど、虐待防止についての研修機会を確保しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束の必要性があるか話し合いを職員間、また保護者様と綿密に話し合い、必要がある場合は計画に反映する様にしております。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			対象のお子様はいませんが、アレルギーの申告があった場合は医師の指示書に基づいて対応させていただきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			記録に残し、職員で周知し、話し合いの場を設けています。原因と改善策などを、報告者以外の職員の考えも聞くことで、再発防止に努めています

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。